

平成 23 年 10 月 31 日

各 位

会社名 株式会社ウェッジホールディングス
代表者名 代表取締役社長 田代 宗雄
(コード 2388 大証 J A S D A Q 市場)
問合せ先 執行役員経営管理本部長 浅野 樹美
(TEL 03 - 6225 - 2207)

タイ洪水被害の当社グループへの影響について (第 6 報)

当社の連結子会社である Group Lease PCL (以下、G L) における、このたびのタイ国内での洪水発生に伴う影響に関しまして、平成 23 年 10 月 31 日朝の時点で確認されております事項をご報告いたします。

記

1. G L 本社近辺について

G L 本社はこの週末の土曜日・日曜日とも通常通り営業いたしました。本社近辺につきましては、通常通りの営業を行うことのできる状況です。

(G L 本社ビル 10 月 30 日撮影)



2. G L アユタヤ支店近辺について

G L のアユタヤ支店の状況につきましては、すでに平成 23 年 10 月 20 日にお知らせいたしておりますように営業停止の状況にあります。同支店自体の人的・物的被害はないことを確認しております。

新しい報告が入った場合にはお知らせいたします。

3. G L その他の支店

タイ最大の工業地帯であります、イースタンシーボード地域 3 支店、タイ東北地方のナコンラチャシマ県 1 支店につきましては、洪水の影響はなく、今後とも影響を受ける可能性は低いと現時点では判断しております。

4. バンコクの状況について

バンコク全体において、様々な地区において浸水が起こっております。特に川の周囲、運河の周囲など標高の低い地域が浸水をしております。特に標高が低い場所においては1.5メートルの水位も見られます。これらの地域においては、交通が寸断され、ビジネスが停滞するなど、様々な影響が大きく出ております。ビジネスの中心街などバンコクの多くの地域においては、浸水してはおりませんが、今後の影響が懸念されます。

28日金曜日は大潮となり、本日まで比較的満潮時の潮位が高い状態が続きます。しかしながら、一定の被害を出しつつも、市内全域が浸水する事態には至りませんでした。

また、28日金曜日の満潮時、もっとも懸念される午後8時ごろに、都心部において熱帯特有のスコールがバンコクを襲いました。滝の中にいるような暴風雨が吹き荒れ、都内各所において一時的に排水が間に合わない場所が出ました。比較的短時間であったこと、地域が限定されていたことから、全般的な浸水には大きな影響を与えませんでした。

上記の状況から、最大の山場とされた大潮は、多少の犠牲を払いつつ乗り切ったと考えられます。今後は、防水壁や土嚢、土堤などが、長期間水圧に耐え続けているために、それ自身が崩壊する事態や基礎部分がもろくなるなどして浸水が広がる可能性が指摘できます。また、浸水地域の水は各種のゴミ、がれき、汚物などを含んでおり、また都心に近いほど、また長期間滞留すればするほど汚染が進んでおります。このことの住民への健康被害が懸念されております。

また、政府の施策により、水道水の水源であるプラパー運河の水位が下降したため、この上流に隣接する区域の住民が、汚染された水をプラパー運河に流し込むという事態も起こっており、バンコク都内の上水道の水質が急速に低下しております。

5. GL業績への影響について

バンコクの状況が山場を越えたとみられていることから、現時点において、被害地域にあたるアユタヤ支店及び本社における、直接的な人的物的被害は極めて限定的であると判断しております。しかしながら未だ予断を許さない状況が続いておりますので、今後も注意深く状況を見てまいります。

同時に、短期的には被害地域において顧客が返済する手段がないなどの影響が出ております。通常顧客の大半は、コンビニエンスストア、各種ショッピングセンターの支払いカウンターで返済を行いますが、GLの支店ならびに銀行振り込みで返済を行う顧客もおります。現在、アユタヤおよび、バンコクの一部地域においては、これらの手段が機能していない地区が多く残されており、また営業していても交通が寸断されていてアクセスできないなどの問題があります。あるいは、顧客自身が被災することでその対応に追われている状況もあります。

現在も顧客と逐次連絡を行うなど、状況把握に努めておりますが、大半の顧客とは携帯電話で連絡ができる状況にあります。顧客が支払う方法がないなどの事情に対しては、柔軟に対応しております。

情報によりますと、多くの地点でコンビニエンスストアなどの各種支払手段の機能が回復するのは11月半ばとのこと。中長期的影響については、この後に徐々に判明すると考えております。

当社会長此下竜矢よりの報告

1. 市内各地では浸水する地域が多く出ております。また、増水後、水が引くなど、一進一退を繰り返しております。
2. 金曜日の夜を除き、市内は晴天が続いており、洪水対策に幸運をもたらしております。
3. すでにバンコク都内ならびにその周辺の、東西の地区で増水が始まっております。これは、タイ政府が行っている、バンコク中心部にできる限り水が入らないようにしつつ、東西に水を逃がし、チャオプラヤ川以外の運河、河川からタイ湾に水を注ぐという作戦が一定の成果を上げているものと考えられます。また、水のはけ口の一つであるバンコク都バンクンティエン区（バンコク西南部。開発が進んでおらず、広大なエビ養殖場が一面に広がる）においても増水が見られ始めたことですので、水は海に到達しつつあるようです。

日本の方から様々なご質問、ご心配を頂いております。日本とタイの深い結びつき、また世界経済におけるタイの地位に高さから、日本のメディアからも注目度が高く、皆様におかれましても衝撃的な映像を目にすることが多いかと存じます。以下にまとめて報告いたします。

① タイは国土の30%が水に沈んだと聞いているが本当か？

今回の洪水の影響でタイの国土の30%が水に沈んだという事実はありません。

洪水の影響を受けた県数などからこのような情報になっていると思われませんが、タイは大きく分けて、中央部、北部、東北部、東部、西部、南部に分かれます。今回大きく報道されている洪水は、主にタイ中央部地方において起こっております。その他の地域においても洪水が発生しておりますが、雨季にあたるこの時期としては毎年の事でもあり、通常は短期間で収束しております。この中央部においても洪水の地域はチャオプラヤ川沿いの一部に限定されております。

また、増水した水は、上流より下流へ移動しているため、これら被害地域が一斉に水没しているというわけではありません。既にお伝えしました通り、中央部に属するナコンサワン県も増水いたしました。ただこの地域は人口密度が高いために、多くの県が集中しております。このため、各県の面積も狭く被害を受けた県数としては多くなっております。

また、影響を受けている県でも、低地から網の目状やまだらに浸水が進むために、全域が水に沈んでいるわけではありません。

タイの国土は51万平方キロに及び世界第50位です。世界最大のコメ輸出国であるタイにおいて、水田面積は約10万平方キロとされています。これはタイの国土の20%近くにあたり、雨季にあたるこの時期、タイの水田は天水田でさえ水で覆われています。衛星からの映像で見れば、タイ全土が水に覆われていると見えても不思議ではないかもしれません。この他にも、河川、貯水池、海近くには広大な魚介類の養殖場が広がっていますので、このあたりも影響をしているのではないかと推測しております。

- ② バンコクは空港が閉鎖されて、タイから出られないのではないか？（此下はタイに閉じ込められているのか？）

現在、報道で伝えられております、閉鎖された空港というのは、旧国際空港のドンムアン空港です。ドンムアン空港は1914年から続く歴史ある空港ですが、2006年に新空港スワナプーム空港が完成し、空の玄関口は新空港に移っております。ドンムアン空港はすでに、ごく一部の格安航空会社が利用するだけの空港となっております。

従いまして、現在、タイと日本との間の国際便をはじめ、国内、国際ともに、ほぼ通常に運航されております。

- ③ バンコクはもう半分水に沈んだのか？

現在までにバンコクの全50区のうち半数の地区で浸水が確認されております。しかしながら、繰り返しますが浸水が確認された地区全域が、水に沈むわけではなく、川沿い、運河、水路、低湿地などが増水した結果、網の目状に浸水が進むというのが実情です。したがって、浸水した区においても、ほとんどの地域においては通常の生活が営まれており、標高の低い場所において深刻な事態が発生しているのが現状です。

朝、ラジオにて浸水70センチと伝えられた地域に行ってみました。その結果、運河沿いを中心に、大通り、小路ともに浸水が認められました。

特にいくつかの小路においては膝丈の浸水があり、ラジオでの情報どおりでした。同時に、隣の小路においては浸水がないなど、浸水がまだらに起こっている様子がうかがえました。

また、大通りにおいても、写真に見られるように北側（写真右、東向け車線）においては4車線中2車線は水深が深く、通行ができない状況でしたが南側においては乾いた状態の場所が大半でした（写真奥は乾いた状態が続く）。



また、北側車道の外側にあたる場所は排水溝となっており、この部分が低くなっているために、水深は50センチ程度はあると思われました。一方、歩道はそれよりも30センチ以上高いために（タイでは歩道と車道の高低差は日本より一般的に大きい）、足元を濡らす程度の水位となりました。

このように、同じ地区にあり、数十メートルしか離れていなくとも、土地の高低によって大きく状況は異なります。従いまして、全域が水没する可能性はありません。

④ バンコクは水に取り囲まれて孤立しているのか？

(東部へ向かう高速道)

バンコクは既に10月28日にお伝えしましたように、アジアハイウェイ1号線、2号線となる道路をはじめ、主に、北、西、東の方向に道路が伸びております。タイおよび、東南アジア全体の陸路がバンコク外周道路で交差して、また広がって行く構造となっております。

(詳しくは、私が書きました日経BP オンライン

<http://business.nikkeibp.co.jp/article/money/20071130/142083/?rt=nocnt> をご参照ください。)



これら外周道路のうち、北に向かう道路は現在、通行が不可能か、もしくは極めて困難な状況にあります。一方、バンコクから東にあたるスワナプーム空港やタイ最大の工業地帯イースタンシーボードに向かう2本の高速道路等は通常通り運行されております。またこれらの道路は高架道路になっており、水没する可能性はありません。また、西部並びに南部へ向かう西向き道路も、浸水は全くなく、正常どおり通行しております。

(このような高架道路が続く)

(30日現在も巨大都市バンコクへの輸送が続く)



これらの道路を通行すれば、北向き道路が通行不能であっても、被災の中心地を除けば、全国と物流、人の行き来ができています。GLも通常利用する北向け道路が通行不能になっている東北部の支店とも他の道路を利用しマネージメントが行き来しながら業務を遂行しております。

(チャオプラヤ川 2011年10月30日海運継続)

また、バンコクはタイ国2位の公営港として整備され、これにつながる民間の岸壁や棧橋などで荷の積み下ろしが行われているなど、水運が確保されております。

従いまして、空港、港、道路と人も物も行き来できる状態にあり、孤立していません。





⑤ バンコクは物資が不足しているのか？

バンコク都内においては、先週の10月24日ごろからスーパーマーケットなどで棚が空になっている様子が目立つようになりました。特に水、コメ、ティッシュペーパー、生理用品など生活必需品が不足しておりました。

特に先週においては多くのバンコク都民が浸水に備えて、一気に物資の買いだめに入ったとみられ、買い物客が急増するとともに、客単価が5倍になったとも言われています。



まずは先駆的な家庭や企業がリスクを感じて大量に物を買います。物が無いという噂が、人々をさらに購買に走らせ、更に物資が不足する。そして物が無いという噂がさらに広がる。このように循環するドミノ倒しのようになっていたわけです。各家庭や企業は自己防衛のために正しい行動をしていますが、結果、物資の不足を起こしたという、「合成の誤謬」あるいは、「予言の自己実現」とでもいうべき状況でした。

現在も、家庭の買いだめ欲求は継続していると考えられ、水や、ティッシュなどは入荷しているのですが、すぐに売れてしまっています。現在はフォロワーによって買いだめが継続しておりますが、緊張感が緩和されるか、家庭内在庫が十分に増えればこの状況は収束に向かうと考えられます。

すでに都内においてもスーパーマーケットで水が山積みになっておりますし、Evianなどは「2本買うと1本おまけ」キャンペーンを継続しているようです。企業内在庫が売り上げとなり、家庭内在庫に移動しつつあると考えられます。

以下は都内の10月29日及び30日の様子です。

(バンコクへの輸送続く)



(スーパーに野菜が届く)



(花王もスーパーに商品を届ける)



(300キロ離れた県から輸送された水が路上で販売されている)

また、タイのインフォーマルセクター（小規模な事業者などを指す。草の根経済）の活動が活発であり、オートバイ、ピックアップトラック、トラックなどで、水、卵、船、ライフジャケット、長靴、などを次々に被災地周辺や都内に輸送し、路上などで次々に売り出しています。

⑥ タイの大半の工業地帯は水に沈んでしまったのか？

タイのうち大きな工業地帯でありますアユタヤ地方の工業団地などが被災を受け、深刻な状況にあります。同時にこれらの地域においても、わずか数十センチ、あるいは数メートルの高低差によって、まったく被害を受けていないか、もしくは被害が軽微な工場も多いようです。実際、すでに操業を再開した工場も出始めております。

また、タイ最大の工業地帯であるイースタンシーボード（東部工業地帯）は、チャオプラヤ川沿いになく、今後も影響を受けないと考えられます。被災した日系企業は 300 社を超えるといわれております。一方、在タイに進出した日系企業は 6,000 社以上と言われております。

影響は深刻であり、また、全世界にとっても重大であるが、タイの工業地帯が全て被害にあったわけではないことも分かっていただけかと考えます。

⑦ 日本人の住む地域にも浸水したのか？

日本人は主にスクンビット通りというバンコク中心の高級住宅と高層コンドミニアムの林立する通りに居住しています。これらの地域には浸水はしておりません。

ただ、スクンビット通り自体は、非常に古い通りであり、バンコクを起点に東へ向かい、カンボジアまで続く 399 キロメートルの長い通りとなっております。このうち、浸水が伝えられたのは、日本人居住区から離れ、チャオプラヤ川と最接近する数小路のみです。この区域は川にきわめて近いこと、スラム街があり、土地が極めて低いことなどから、浸水したものと思われま

⑧ 王宮やエメラルド寺院が浸水したということは中心部も水浸しでは？

タイの雨期、特に雨期の終わりには、滝のようなスコールが降ります。しかもバンコクやタイ中央部は極めて平坦な土地のため、毎日のように排水が追いつかず、水があふれ出します。都市設計、道路の工事、住宅や、建物の工事の際には、まず、この雨水の処理を考えて作られることとなります。できる限り多くの排水口を川や運河に開け、道路や敷地内にためないこと、周囲よりも比較的土壌を造成して、高く作ることがその基本です。

そのため新しく建てられる建物などは次々に相対的に高所になります。その結果道路が冠水しますので更に道路はそれよりも高く作られることとなります。そうすると、次にたてられる建物などはさらにそれよりも高く立てるということとなります。

結果、古くからの住宅、建物などは相対的に低所に存在することになり、寺、古くからの地区、川沿いの家などは数十センチから 1 メートル以上低いということが起こっています。また、バンコク自体は川沿いに作られ、内陸に向かって発展した都市ですので川沿いほど低いこととなります。

王宮、エメラルド寺院は当然ながらバンコクの中で最も古い施設の一つであり、必然的に川に近く、比較的低位にあります。このため、初期の段階で浸水が起こっております。

タイの GDP のうちバンコクは5割近くを占めるといわれますが、すでにこの地域はバンコクの経済の中心ではなく、ビジネスの中心となる部分はいまだ浸水しておりません。

皆様の温かいご支援と、ご心配に心より感謝するとともに、上記をご報告申し上げるものです。

すでに山場は乗り切ったとの観測もありますが、今後ともGLの業務の執行、業績への影響を注意深く見極め、適切に社業の発展に尽くしてまいります。新たな情報等がありましたら、投資家の皆様、市場関係者の皆様、その他の関係者の皆様にご報告申し上げます。

なお、先日から掲載している写真につきましては、すべて当社会長の此下竜矢が現地にて撮影したものです。

以 上